



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

生きていく上での礎 (いしずえ)

校長 永浜 裕之

今回は、私が生きていく上での礎にしている考え方について、そのように考えるようになった経緯を含めて2つお話しします（7月20日の定時制課程終業集会で話しした内容の抜粋です）。

私はクリスチャンではありませんが、小さい頃、友人に誘われて毎週日曜日、教会に通っていました。私にとって、朝早くからの礼拝の時間は苦痛以外の何ものでもなく、立ったり座ったり、難しい聖書の講釈の時間が、「早く終わります様に！」と、祈っていた気がします。

しかし、礼拝の最後に、パイプオルガンの荘厳な音色が鳴り響き、教会に集う人々が唄う讃美歌の時間は大好きで、そのことのためだけに、教会に通っていました。

ある時、小賢しい私は、「礼拝の時間に少し遅れて行こう。礼拝はパスして、讃美歌だけ聴けばいいや！」と考えて、遅れて行ったつもりだったのですが・・見回りを終えて、これから礼拝に向かおうと歩いて来たシスターと、ばったり鉢合わせをしてしまいました。

シスターは、私を満面の笑みで抱きしめると「良かったですね。礼拝に間に合いますよ。さあ、急ぎましょ！！」と話します。私は急ぎ足で歩きながら、チラッとシスターの横顔を見ました。とても美しかったことを覚えています。もしかしたらこのシスターは神様では？・・とも考えながら、シスターの隣で礼拝の時間を過ごしました。

シスターは、私の小賢しい心を疑う事もなく、礼拝に間に合った事をととても喜んで下さいました。もしかしたら、私の魂胆を見抜いたうえで、知らないふりをしていたのかもしれませんが。懺悔してシスターの本心を聞くこともできましたが、恥ずかしいので懺悔することはなく、シスターの本心は不明のままです。

私は子供心に思いました。「このシスターに恥じない様な生き方をしよう。恥じない様な人になろう。」と。「上手く立ち回るのではなく、正しいことをしよう。」と思いました。

あれから60年近くが過ぎ、讃美歌を聴くと、この思い出が蘇ります。

終業集会では、賛美歌312番「What A Friend We Have In Jesus」を生徒の皆さんに聴いていただきました。その際、以下の話を付け加えています。

この歌は、1910年（明治43年）に文部省唱歌となった「星の世界」のメロディに使われました。ただし、この讃美歌の歌詞は、生徒の皆さんが小学生の時に習った「星の世界」とは全く異なるものです。小学校6年生の音楽の授業で「星の世界」を習った私は、担任の先生に「英語の歌詞とまったく意味が異なる歌詞に違和感を覚えます。」と生意気な意見を言いましたが、担任の先生は微笑みながら、「それなら、英語の歌詞とその訳を紹介して」と話し、クラスメートの前で説明したことも懐かしい思い出です。

2つ目のお話しです。

小学校1年生の冬、いつも穏やかな父親から私は、大変な剣幕で起こられました。言われた言葉は今も覚えています。

「お前は教師に人を殺せと言われたら殺すのか。」と、大声で怒られたのです。

驚愕な経験をすると体の防御反応が働き、記憶があいまいになるのかもしれませんが。何を理由に怒られたのかは覚えていないのです。ただ、怒られる直前に「先生がいいと言ったから」のような話をしたような気がします。

「先生がいいと言ったから」という言葉を聞いた父親の反応が、「お前は教師に人を殺せと言われたら殺すのか。」と続けば、意味は通ります。鹿児島県生まれで、米軍の機銃掃射を受けたことなど、戦争を経験した父は、全体主義への嫌悪感を持っていました。

この経験により、「人が言ったことを鵜呑みにするのではなく、自らの頭で考え、決断して行動する。」ことを決意しました。いうまでもありませんが、「面倒だからやらない」とか、「やりたくないことはやらない」といったことを決断するものではありません。

このように、幼いながらも「自立」「批判精神」の考えが胸に刻まれたわけですが、5～6歳でこのような事が起こることを考えると、生徒の皆さんと向き合う教員の責任の重さを痛感します。私たち教職員は、常に真摯に生徒の皆さんと向き合い、その成長を支えていく存在でなければならないと考えます。

僕は、近所の谷中囲碁教室に友人に誘われ小一の時入会しました。最初は難しく、何がなんだか判らない時を三か月過ごしました。誘った友人はギブアップで退会。しかし僕は、徐々に興味が出て来て、勝てる様になり四年間教室で頑張り、その間に小学校囲碁団体戦全国大会優勝、この時は大きな大会で優勝出来、最高に嬉しくなりました。次は国際・ペア碁選手権大会で準優勝等とれ益々囲碁が好きになりました。中学受験で中断、入学した私立中が自身に合わず公立中に転校しました。中三の時高校選りとなり過去プロ棋士を輩出した山吹高校を志望校に決め受験、そして入学出来ました。入学後、囲碁部はありながら人数が少なく落胆しました。勧誘しても中々入部者がありませんでした。このような状態の時、日本でトップクラスといわれる洪道場を知り、意を決して入会。プロ棋士目標の人ばかりの道場だったので最初は驚き逃げだしたかったのですが、強い人と対局をしているうちに少しずつ自信が出て来てここで頑張っていこうと決心しました。高一から土・日曜日は道場通い、家でも指南書を沢山取り寄せ研鑽しました。囲碁に夢中でした。高一で関東大会に出場、高二で全国高校囲碁選手権大会と2023かごしま総文に出場出来ました。東京都代表の三名の主将となり、これほど緊張した事はありませんでした。仲間と励まし合う事の大切さを学びました。普段は出会う機会が無い高校生と、囲碁での対話が出来た事の大きな喜びと、優勝出来なかった事の悔しさが混ざり合い、桜島の風景と共に、一生忘れられない思い出となりました。山吹高校は選択制でとても自由であります反面、自己管理を強いられ自身にとって大変良い教育・環境だと思居ります。生まれてから16年間特に夢中になれる事が皆無だった僕でした。こんなに好きになれた囲碁に今は感謝の気持ちで一杯です。大学・社会人になっても囲碁を続け集中力・忍耐力を身につけ、誰にでも好かれる立派な人間になりたいと思います。



指宿総合
体育館にて

東京都代表
メンバーと

定時制課程 学校行事予定

- 9月1日(金) 転入学式、授業開始、避難訓練
- 8日(金) 自己探索学習④
- 15日(金) 前期末考査時間割発表
- 18日(月) 敬老の日
- 19日(火) 開校記念日
- 20日(水) オンライン学習デー(自宅で受講)
- 25日(月) 前期末考査 ~ 29日(金)

第25回世界スカウトジャンボリー ~DRAW YOUR DREAM~ に参加して 情報科2部5組 秋庭洸太郎

韓国の全羅北道セマングムで開催された第25回世界スカウトジャンボリー (WSJ) に日本派遣団のひとりとして参加しました。WSJは、世界各国から集い12日間のキャンプ生活をしながら、学習プログラムを体験し、国際交流を行う、4年に一度のボーイスカウトの祭典です。今回は、159ヵ国4万3255人が結集しました。残念なことに、台風6号の直撃により避難を余儀なくされ、キャンプサイトでの生活は7日間でしたが、その短い期間の中でも、日本の文化を紹介したり、様々な国の人たちと交歓ができました。中でも印象に残っているのは、交歓夕食会でのスウェーデンの人たちとの会話で、箱根の温泉卵の話で盛り上がったことです。避難中は、日本派遣団1568名を忠清北道円陽郡にある大韓仏教天台宗の総本山救仁寺が受け入れてくれました。お寺の方々をはじめ、檀家の皆さまと地元住人の方々が本当に良くしてくださいました。台風6号の影響で大雨のため、外に出られず室内で、ユネスコに登録されている舞踊の披露を見せてもらったり、大学生ボランティアにより、オペラとパントマイムショーを見せてもらいました。また大韓仏教の天台宗についてや、お辞儀の仕方やお経の唱え方も教わりました。僧侶の方の説法で「避難せざるを得なかったことは残念だろうけども、そのアクシデントのお陰でこのお寺は日本の青少年たちと出会える機会を得た。これを縁とし、一期一会の機会を大切に不満を嘆かず、前向きに DRAW YOUR DREAM にトライし続けよう」という言葉がとても印象に残りました。今回のWSJの参加で、様々な国の文化に触れ、国際交流の楽しさと、数え切れない人々の助けや親切にもらったことが一番の思い出となりました。これらの経験は将来、自分の糧になることは間違いないと思います。



通信制課程 学校行事予定

- 9月1日(金) 転入学式
- 2日(土) スクーリング1-12、避難訓練
- 9日(土) 前期末試験1日目
- 16日(土) 前期末試験2日目
- 18日(月) 敬老の日
- 19日(火) 開校記念日
- 23日(土) 秋分の日
- 30日(土) 前期末試験3日目